



TITLE:

[12月24日 講義6 アジアにおける災害対応(1)] GISリモート・センシングにおける日本とアチェの協力について

AUTHOR(S):

ムザイリン アファン

CITATION:

ムザイリン アファン. [12月24日 講義6 アジアにおける災害対応(1)] GISリモート・センシングにおける日本とアチェの協力について. CIAS discussion paper No.25 : 災害遺産と創造的復興 : 地域情報学の知見を活用して 2012, 25: 158-158

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228479>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

GISリモート・センシングにおける 日本とアチェの協力について

ムザイリン・アフアン シアクアラ大学GISリモート・センシング・センター

Muzailin Affan

(Pusat Pengembangan GIS dan Remote Sensing, Universitas Syiah Kuala)



災害に関して、とりわけリモート・センシング技術の話も含めて、このようなかたちで知識が交換できることをたいへんうれしく思います。

■ 日本からの協力も得て GISリモート・センシング・センターを創設

シアクアラ大学では、2004年の津波以降にGISリモート・センシング・センターをつくりました。災害復興においてこれらの情報が必要だったからです。センターの設立にあたっては日本の協力もたいへん受けました。とくにJICAとJAXAからです。また、ALOSを使わせていただくことができました。

これまでも東北大学、京都大学、神戸大学などの日本の各大学と連携してきましたが、今後もGISのリモート・センシング技術を発展させるうえで日本と協力をしていきたいと思っています。

本日のご報告はたいへん興味深く聞きました。初めて聞くことも多かったです。たとえば、ブルドンさんの多言語の翻訳システムについては初めて聞くことばかりで、ぜひ今後は自分たちも活用していきたいと

思いました。

■ 災害対応分野において 緊密な協力をとりつつ研究を進めたい

先日、日本の国会から代表団がアチェにやってきました。経済協力や災害対応における協力が強調されていたのが印象的でした。今後も日本との関係のなかで、とくに私たちはGISリモート・センシング・センターですし、そういった技術面での協力を進めたいと思います。とりわけ強調したいのは、ここにいる学生をはじめとする人々への技術や関係する専門分野の伝達です。

いろいろとおうかがいしたいこともあるのですが、本日は時間が限られているので、このように簡単にご挨拶させていただくことをお許しください。GISリモート・センシングという観点から災害協力に関わっておりまして、災害対応分野での協力をぜひいっしょにやっていきたいという意志だけきちんとお伝えしたいとお話したしだいです。